

■ 概況

8/5~8/18のNYMEX・WTI先物市場は、65.46~69.25ドルの範囲で推移した。

8月19日は、世界的な感染再拡大に伴う経済回復停滞の見通しから、石油需要の先行き懸念が高まり、また、米金融緩和策の年内終了観測によるドル高の進行に伴う原油先物の割高感から、6営業日続落した。前日発表の米国内ガソリン在庫がドライブシーズン中にもかかわらず増加したとの報告も意識された。9月限の終値は前日比1.77ドル安の63.69ドル。

週末20日は、引き続き、世界的な変異種による感染のまん延に伴う石油需要の減少懸念から、7営業日続落した。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比8基増の405基。9月限の終値は前日比1.37ドル安の62.32ドル。

週明け23日は、先週の原油先物の値ごろ感による買いに加え、連邦準備制度理事会（FRB）の金融緩和策の先送り観測が高まり、外国為替市場ではドル安が進行、原油先物の割安感から買われ、8営業日ぶりに大幅反発した。主要国での株価の回復も支援材料となった。この日から期近物となった10月限の終値は前日比3.50ドル高の65.64ドル。

24日は、引き続き、前週の値下がりへの反動で買戻しが続き、続伸した。メキシコ沖合の油田事故で、同国の全生産量の約25%（42万b/d相当）が生産停止したことも、上昇要因となった。10月限の終値は前日比1.90ドル高の67.54ドル。

25日は、米国エネルギー情報局（EIA）の米国石油在庫統計で、原油在庫は3週連続の取り崩し、ガソリン在庫もは市場予想を上回る取り崩しだったことから、先行き石油需要は明

るいとして、3日続伸した。10月限の終値は前日比0.82ドル高の68.36ドル。

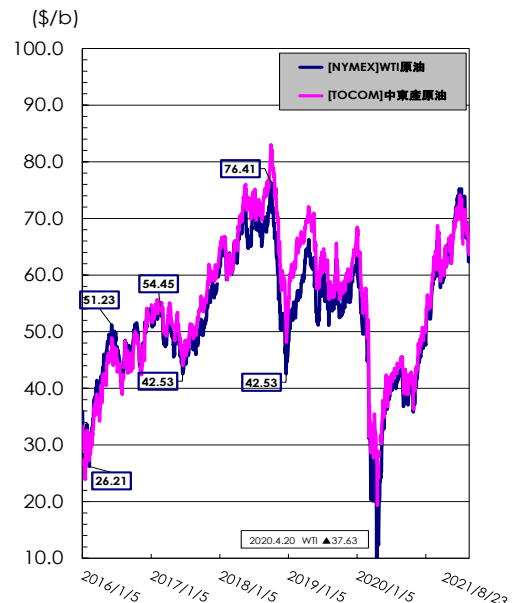
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（10月渡し）は、8月5日~18日の間68.50~70.30ドルの範囲で推移した。8月19日66.10ドル、20日65.50ドル、23日65.60ドル、24日68.30ドル、25日69.70ドルで推移した。

為替は8月5日~18日の間109.23~110.69円の範囲で推移した。8月19日109.99円、20日109.89円、23日109.85円、24日109.77円、25日109.86円で推移した。

財務省が8月18日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、7月下旬の原油輸入平均CIF価格は、50,822円/klで、前旬比176円安、ドル建て73.23ドルで前旬比0.05ドル高、為替レートは1ドル/110.34円。また、同日発表の貿易統計（速報・旬間）によると、7月の原油輸入平均CIF価格は、49,874円/klで、前月比2,278円高、ドル建て71.72ドルで前月比2.61ドル高、為替レートは1ドル/110.56円。

そのような中で、8月23日時点の小売価格は、ガソリンが前週（8月16日）比0.4円の値下がり、軽油も同0.3円の値下がり、灯油は同4円の値下がり（18%ベース）だった。ガソリンは3週ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油は38週ぶりの値下がりだった。この週（8月第4週）の原油コストは大きく値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比2.0円の引き下げとなった模様。

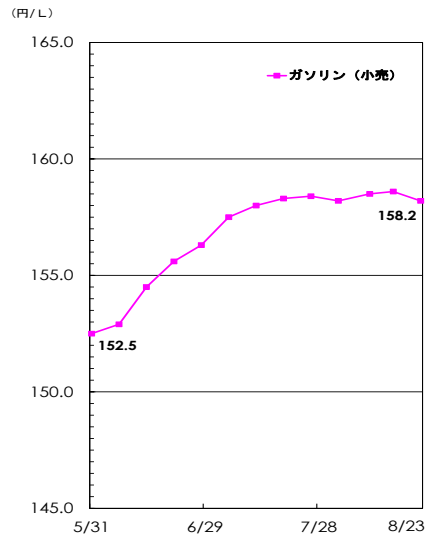
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/15 ~ 8/21	2,966 ▲90	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.1 ▲2.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/21	10,649 ▲657	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	8/23	63.60 ▼-3.83	▲19.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	8/23	65.64 ▼-1.65	▲23.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月下旬	73.23 ▲0.05	▲40.45
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	50,822 ▼-176	▲28,712
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.34 ▲0.45	▼-3.12
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/23	110.85 ▼-0.34	▼-4.05



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/15 ~ 8/21	835 ▼ -103	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	695 ▼ -265	▼ -	
	輸出	"	40 ▲ 8	▲ -	
	在庫	8/21	1,977 ▲ 99	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/17 ~ 8/23	65.5 ▼ -0.7	▲ 21.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/17 ~ 8/23	62.2 ▼ -2.7	▲ 22.5
		(TOCOM/中部)	8/23	63.8 ▼ -0.2	▲ 22.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/23	158.2 ▼ -0.4	▲ 22.9	

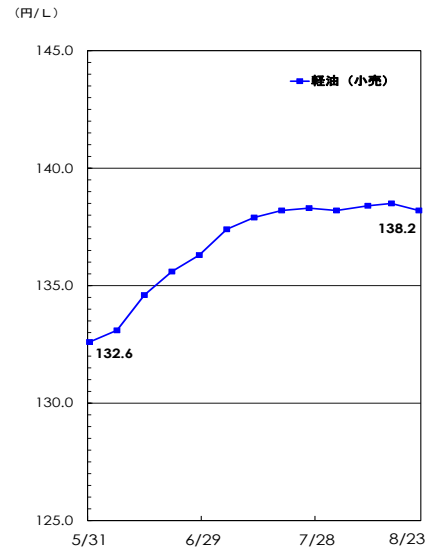
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

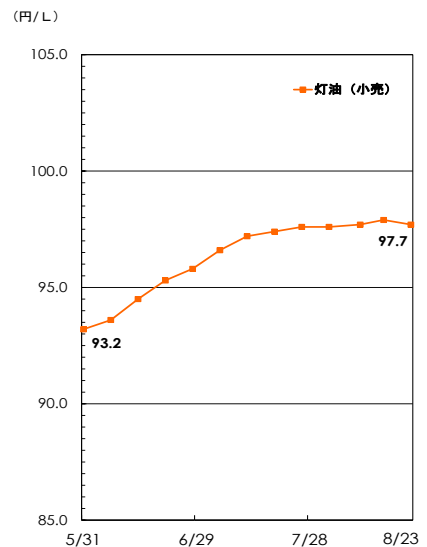
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/15 ~ 8/21	718 ▲ 36	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	437 ▲ 7	▼ -	
	輸出	"	71 ▼ -148	▲ -	
	在庫	8/21	2,088 ▲ 210	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/17 ~ 8/23	66.7 ▼ -0.8	▲ 19.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/17 ~ 8/23	65.1 ▼ -1.6	▲ 16.6
		(TOCOM/中部)	8/23	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/23	138.2 ▼ -0.3	▲ 22.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/15 ~ 8/21	166 ▲ 59	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	91 ▲ 19	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -22	▶ -	
	在庫	8/21	2,087 ▲ 75	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/17 ~ 8/23	65.9 ▼ -1.0	▲ 19.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/17 ~ 8/23	60.2 ▼ -1.5	▲ 18.1
		(TOCOM/中部)	8/23	62.0 ▼ -2.0	▲ 17.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/23	97.7 ▼ -0.2	▲ 16.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月25日のNYMEXのWTI先物原油は3日続伸した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油在庫は300万バレル減と市場予想通りの3週連続の取り崩し、ガソリン在庫も市場予想を上回る220万バレル減少したこと、さらに、石油製品出荷量もコロナ禍前の昨年3月水準に戻ったことから、先行き石油需要の増加への観測が高まり、買いが集まった。10月限の終値は前日比0.82ドル高の68.36ドル、11月限の終値は0.81ドル高の68.06ドル。

EIAによると、8月23日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.9セント値下がりの1ガロン3.145ドル(92.0円/ℓ)、

ディーゼルは同3.2セント値下がりの3.324ドル(97.2円/ℓ)となった。ガソリンは4週ぶりの値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年8月15日～8月21日に休止したトッパー能力は4.9万バレル/日で、前週に対して12.2万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は296.6万klと、前週に比べ9.0万kl増加。前年に対しては20.4万klの増加。トッパー稼働率は77.1%と前週に対して2.4ポイントの増加、前年に対しては6.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/11.0%減、ジェット/29.5%減、灯油/55.2%増、軽油/5.2%増、A重油/33.7%増、C重油/13.1%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.5万kl減)。軽油の輸出は7.1万kl(前週比14.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリンが減少し、その他の油種で増加した。前年比では灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は69.5万kl(対前週27.6%減)と3週振りに減少した。ジェット4.6万kl(対前週21.4%増)、灯油9.1万kl(対前週26.8%増)、軽油43.7万kl(対前週1.8%増)、A重油16.5万kl(対前週77.6%増)、C重油21.3万kl(対前週68.5%増)。

(単位:千KL)

	今週 (8/15 ~ 8/21)	前週 (8/8 ~ 8/14)	前週比
ガソリン	695	960	▼ -265 (-28%)
ジェット燃料	46	38	▲ 8 (21%)
灯油	91	72	▲ 19 (26%)
軽油	437	430	▲ 7 (2%)
A重油	165	93	▲ 72 (77%)
C重油	213	126	▲ 87 (69%)
合計	1,647	1,719	▼ -72 (-4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月21日時点の在庫は、A重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては灯油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは197.7万kl、前週差9.9万kl増。前年に対しては18.8万kl多い。

灯油は208.7万kl、前週差7.5万kl増。前年に対しては30.5万kl少ない。

軽油は208.8万kl、前週差21.0万kl増。前年に対しては22.1万kl多い。

A重油は73.9万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては4.0万kl多い。

C重油は191.3万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては2.6万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (8/21)	前週 (8/14)	前週比
ガソリン	1,977	1,878	▲ 99 (5%)
ジェット燃料	809	802	▲ 7 (1%)
灯油	2,087	2,012	▲ 75 (4%)
軽油	2,088	1,878	▲ 210 (11%)
A重油	739	746	▼ -7 (-1%)
C重油	1,913	1,940	▼ -27 (-1%)
合計	9,613	9,256	▲ 357 (3.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月17日～23日の指標原油価格は前週(8月10日～16日)比で値下がりし、為替レートの円高と相まって、円建ての原油コストは大きく値下がりしたと見られる。

次週(8/26～9/1)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比2.0円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月17日～23日の製品スポット市況は、8月10日～16日平均と比べ、全ての取引・油種で値下がりした。

直近週(8/17～8/23)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/10～8/16)比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油は1.0円の値下がり、軽油は0.8円の値下がりだった。同期間(8/17～8/23)において、ガソリンは119円台で値下がり、灯油は65～66円台で値下がり、軽油は66～67円台で値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(8/17～8/23)に、前週(8/10～8/16)比で、ガソリンは1.0円の値下がり、灯油は1.4円の値下がり、軽油は1.2円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(8/17～8/23)に、ガソリンは120～121円台で値下がり、灯油は62～63円台で値下がり、軽油は67～68円台で値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.7円の値下がり、灯油は1.5円の値下がり、軽油は1.6円の値下がりだった。先物価格は、同期間(8/17～8/23)に、ガソリン115～117円台で値下がり、灯油58～61円台で大きく値下がり後値上がり、軽油62～62円台で大きく値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (8/17～8/23)	前週 (8/10～8/16)	前週比
	レギュラー	65.5	66.2
灯油	65.9	66.9	▼ -1.0
軽油	66.7	67.5	▼ -0.8

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (8/17～8/23)	前週 (8/10～8/16)	前週比
	レギュラー	62.2	64.9
灯油	60.2	61.7	▼ -1.5
軽油	65.1	66.7	▼ -1.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/17～8/23実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.7	▼ -2.7	▼ -1.7
灯油	▼ -1.0	▼ -1.5	▼ -1.2
軽油	▼ -0.8	▼ -1.6	▼ -1.2
A重油	▼ -0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(8月16日)比0.4円安の158.2円、軽油も同0.3円安の138.2円、灯油は18%ペースで同4円安の97.7円(1%ペースでは同0.2円安の97.7円)。ガソリンは3週ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油は38週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは12県、横ばいは5府県、値下がり30都道府県だった。全国最安値は151.6円の埼玉県(同1.0円安)、その次は、152.4円の宮城県(同1.0円安)、他方、最高値は167.5円の長崎県(同0.8円安)だった。最も値上がりしたのは同0.3円高の兵庫県(155.4

円)・茨城県(154.7円)で、横ばいは京都府など5府県、最も値下がりしたのは同2.2円安の秋田県(153.6円)だった。

今週(8月17日～8月23日)は、指標原油価格は大きく値下がりし、為替レートの円高と相まって、円建ての原油コストは大きく値下がりしたと見られる。次週(8月26日～9月1日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比2.0円の値下げとなった模様。次回調査時(8月30日)のガソリンの小売価格は値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (8/23)	前週 (8/16)	前週比	直近高値
レギュラー	158.2	158.6	▼ -0.4	08/8/4 185.1
灯油	97.7	97.9	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	138.2	138.5	▼ -0.3	08/8/4 167.4

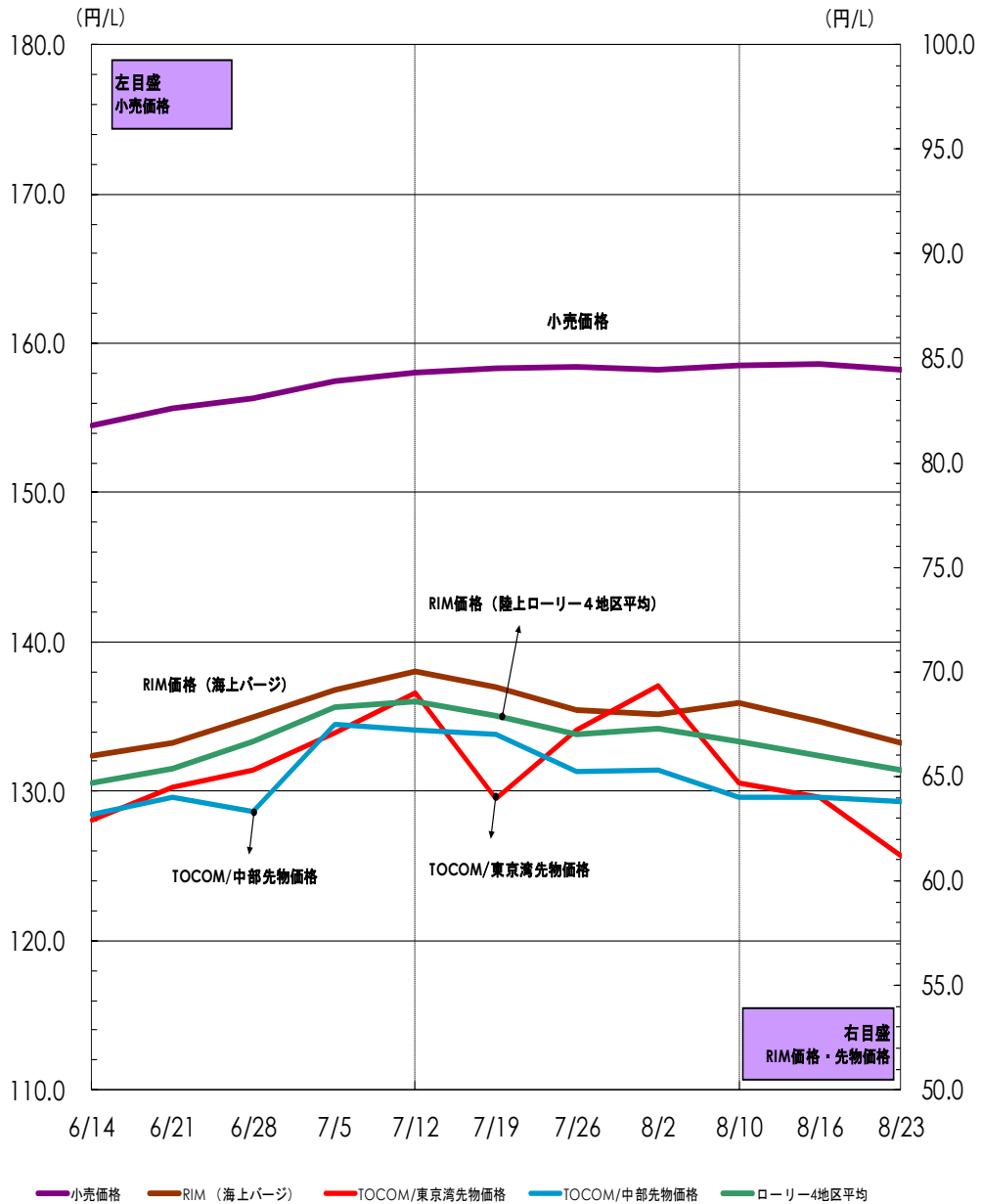
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/6/14 ~ 2021/8/23)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2021第21号) の公表は、9/3 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在) は、8月25日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。